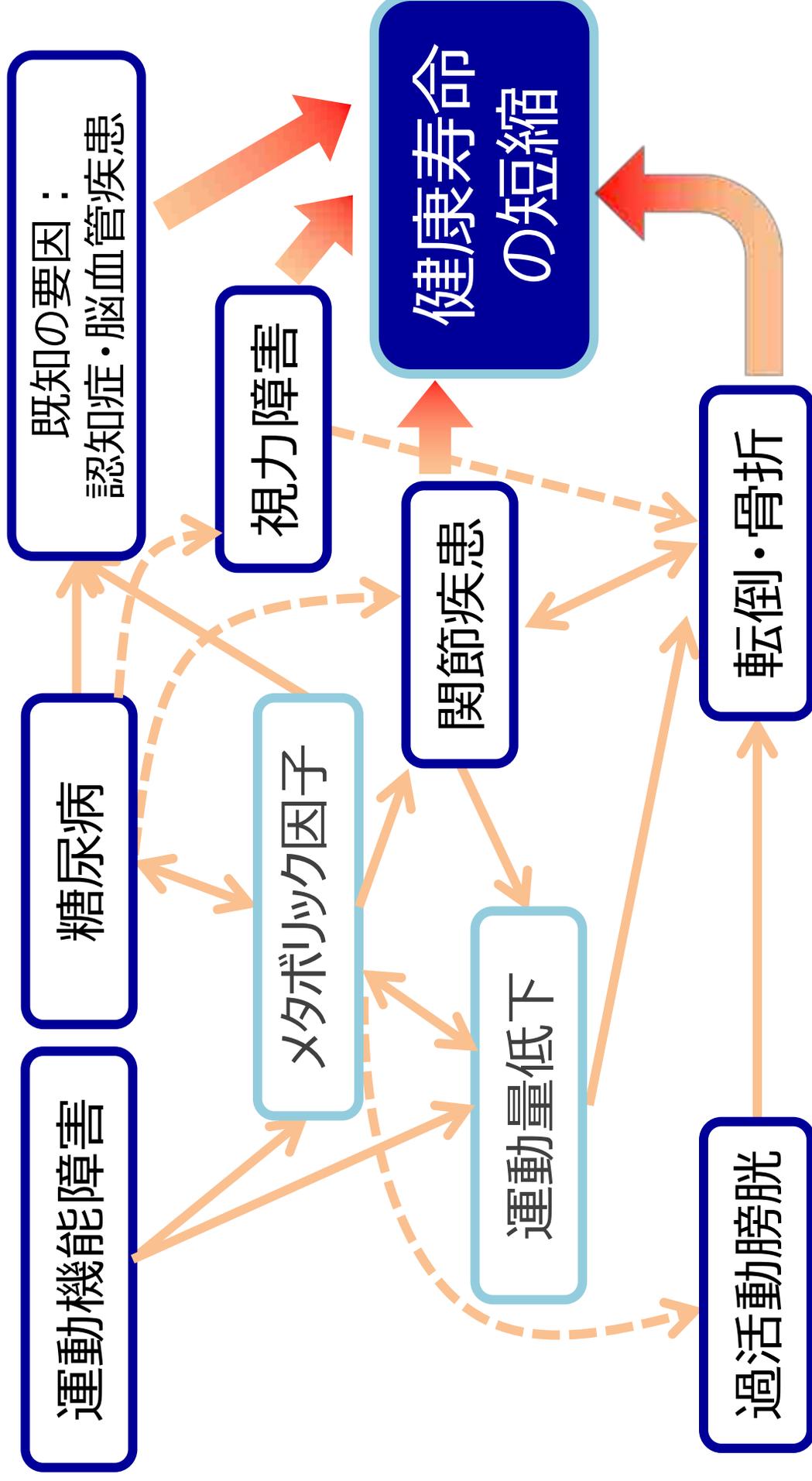


# 関連性が十分に検討されていない 健康寿命に影響を与える要因



# (例) 骨折・転倒に関連する因子

各症状が転倒にどの程度影響を与えるか？

	推定値	
	相対リスク(95%CI)	集団寄与危険 (95%CI)
<b>過活動膀胱</b>	<b>2.5倍 (1.1 – 5.6)</b>	<b>41% (1 – 65%)</b>
<b>運動機能</b>	1.1倍 (1.0 – 1.2)	<b>26% (8 – 40%)</b>
<b>脳血管疾患</b>	1.5倍 (0.8 – 2.9)	3% (-2 – 7%)
<b>視覚障害 +</b>	1.5倍 (1.3 – 1.8)	-

Kurita et al. *BMJ Open* 2014.

Deandrea S et al. *epidemiology* 2012.

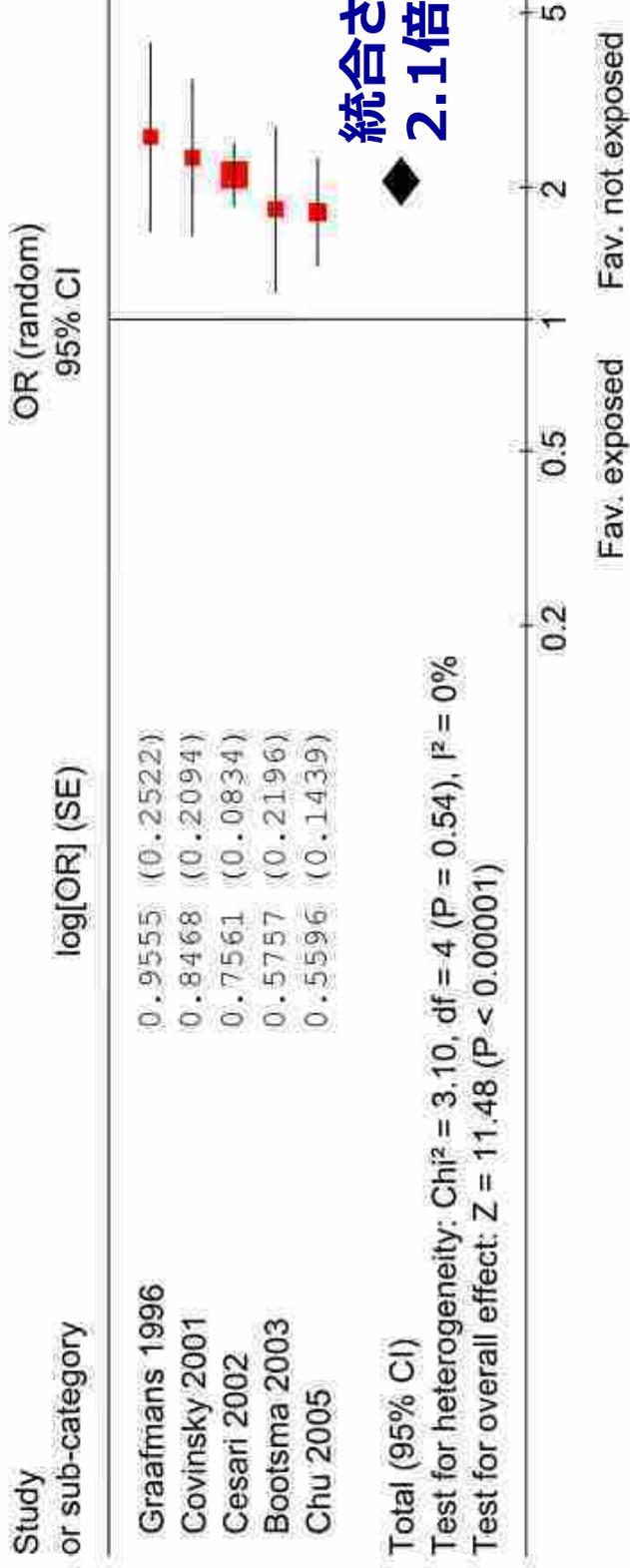
限られた予算の中、予防介入を行う際には、各リスク因子がどの程度寄与するかを地域住民を対象に検証することで、優先順位を決めることができる

# 既存の知見の科学的な統合

(メタアナリシス・システムティックレビュー)

- 数々の先行研究間で明らかにされたリスク因子の影響に関して，科学的に統合することが可能
  - メタアナリシス・システムティックレビューの手法

## (例) 歩行障害と転倒の関係

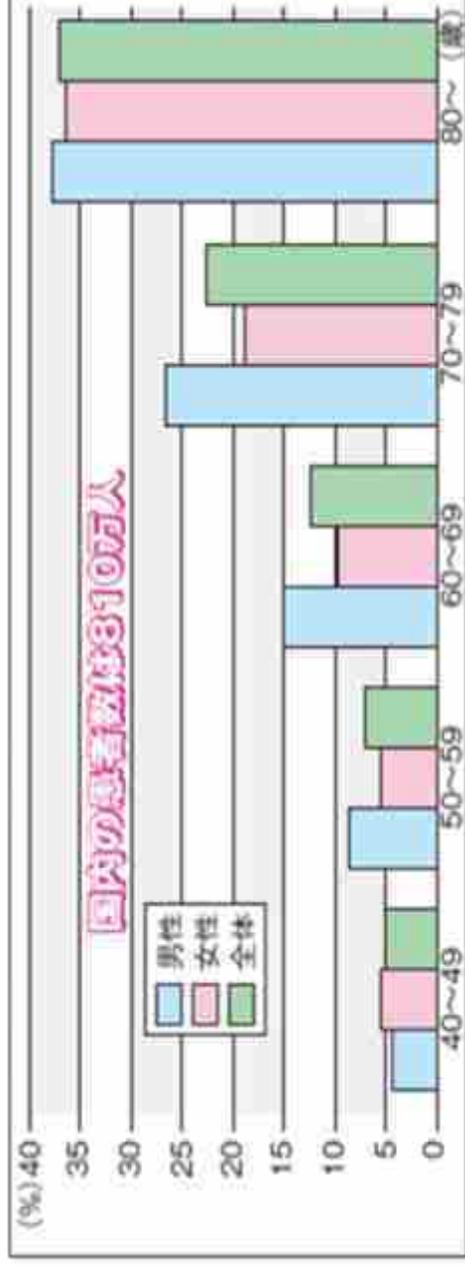


既存の治療法での  
evidence-practice gapの  
同定・解消

# 既存の治療法の

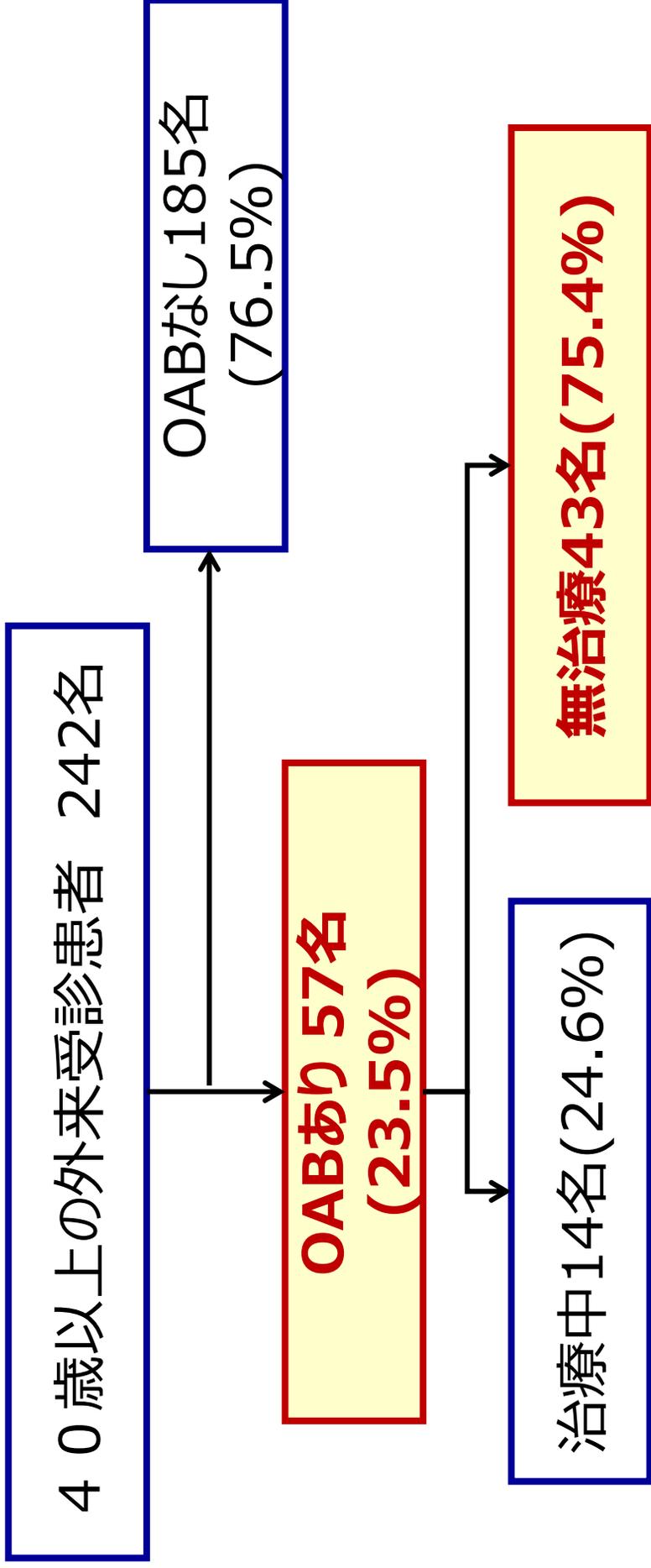
# evidence-practice gapの検証

- (例) 過活動膀胱(OAB)：**転倒**の重要な原因
- 40歳以上の12%, 70歳以上の20%以上が症状あり
  - エビデンスの有る治療薬も存在するが，有病者に対する診療は十分に行われていない可能性
  - 診療実態を疫学的に記述し，投薬を推進することで転倒予防に繋がる可能性がある



# 過活動膀胱のevidence-practice gapに

## 関する疫学研究例 (佐藤・山本ら, 2012)



- 有病者のうち約75%もの患者が、有効な治療があるにもかかわらず、無治療で放置されていることが明らかに。
- この集団に介入することで、転倒リスクを減らせる可能性

# 過活動膀胱のevidence-practice gapに 関する疫学研究 (続き)

全国一般住民 診療所患者 医療機関患者 診療所患者  
本間ら(2003) 石坂ら(2008) 金城ら(2009) 佐藤ら(2012)

対象人数 平均年齢	4480名 60.6歳	737名	4197名 65.1歳	242名 67.3歳
40歳以上の OAB有病率	12.4%	18%	15.0% (30歳以上)	23.5%
<b>OAB患者のうち 治療中の人</b>	<b>22.7%</b>	<b>4%</b>	<b>17.3%</b>	<b>24.6%</b>
<b>OAB未治療患者 のうち, 治療希望 がある人</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>62.3%</b>	<b>21%</b>

現在に至るまで、ギャップが解消  
されていない実態が明らかとなった

# 健康状態の正確な把握

# 健康状態の正確な把握

- 「QOL低下」「ADL低下」をどう評価するか？
  - 科学的に検証された方法で把握する必要あり
  - 「要介護度」だけでは健康状態を定量化が難しい
  - 様々な状態を包括的に評価する尺度の整備

その施策や治療法が、

1.どの程度QOLを改善しているのか？

2.費用に見合っただけの効果を発揮しているのか？  
を定量的に評価されていることが前提

# 健康状態の正確な把握の方法の1例

## ： 効用値 (utility)

- 健康状態に価値づけを行う。
  - QOLを一次元の概念としてとらえ、0-1の数値で表す。
  - 原則として、死亡=0, 完全な健康状態=1とし、患者の健康状態を評価。

**(例)** 糖尿病性網膜症による失明 =0.69 など

- 効用値を用いる研究
  - 「十分ではない健康状態」を定量的に評価する研究  
費用効果分析など

# 効用値測定尺度の例：EQ-5D

EuroQol 5 Dimension

- EQ-5D尺度
  - 5項目の3段階尺度（5D）とVASからなる
    - ⇒効用値算出にはこのVASは使用しない
  - 表わすことのできる健康状態：243通り（3の5乗）

『移動の程度』

『身の回りの管理』

『ふだんの活動』

『痛み/不快感』

『不安/ふさぎ込み』

(例) 回答が23221 ⇒効用値は0.548

あらかじめの研究で効用値の  
換算表が作成されており、  
それにより健康状態を数値化可能

## 移動の程度 EQ-5Dの項目

- ① 私は歩き回るのに問題はない
- ② 私は歩き回るのにいくらか問題がある
- ③ 私はベッド(床)に寝たきりである

## 身の回りの管理

- ① 私は身の回りの管理に問題はない
- ② 私は洗面や着替えを自分でするのにくらか問題がある
- ③ 私は洗面や着替えを自分でできない

## ふだんの活動

- ① 私はふだんの活動を行うのに問題はない
- ② 私はふだんの活動を行うのにいくらか問題がある
- ③ 私はふだんの活動を行うことができない

## 痛み/不快感

- ① 私は痛みや不快感はない
- ② 私は中程度の痛みや不快感がある
- ③ 私はひどい痛みや不快感がある

## 不安/ふさぎ込み

- ① 私は不安でもふさぎ込んでもいない
- ② 私は中程度に不安あるいはふさぎ込んでいる
- ③ 私はひどく不安あるいはふさぎ込んでいる